

地元の振興は自分たちの手で

正善寺工房でたけのこの里まつり

金谷区下正善寺の農産物加工体験施設「正善寺工房」で11日、「たけのこの里まつり」が開かれました。地域のみなさんが中心になって、「地元の振興は自分たちの手で」の精神で、多くの市民を招いて行っている行事です。

大竹早切り競争やストリートダンスなどのアトラクションや、振る舞い餅、タケノコの粕汁販売など、多彩な企画で盛り上がりました。

この地域では、昨年、下正善寺保育園が閉園となり、過疎化がますます進むのではないかとという危惧もあって、地域振興にかける意欲には並々ならないものがあります。参加した平良木議員は、「地域のみなさんの熱意はすばらしいものです。正善寺ダムという市民の水源もあることから、地域と環境を守っていくことに、さらに力を尽くしたいと思います」と語りました。



新商品開発も

正善寺工房では、地元産の食材を加工した斬新な製品の開発を行っています。

写真左は、今年の新商品「畑の貝柱」です。しっかりした歯ごたえと、かめばか

むほど味わい深いというまみで、つつい酒がほしくなる逸品です。材料は食べてのお楽しみです。

暮らしを守る日本共産党議員の 値打ち浮き彫り

直江津での

「市政報告と八重桜を観る会」に50人以上の参加

日本共産党議員団は、5月5日の吉川区に続き、11日には直江津区で「議会報告会」(はしづめ団長と上野議員が参加)を行いました。

直江津での報告会は、五智地域の八重桜を楽しみながらの会で、市民から寄せられた書の作品の展示でも盛り上がりました。

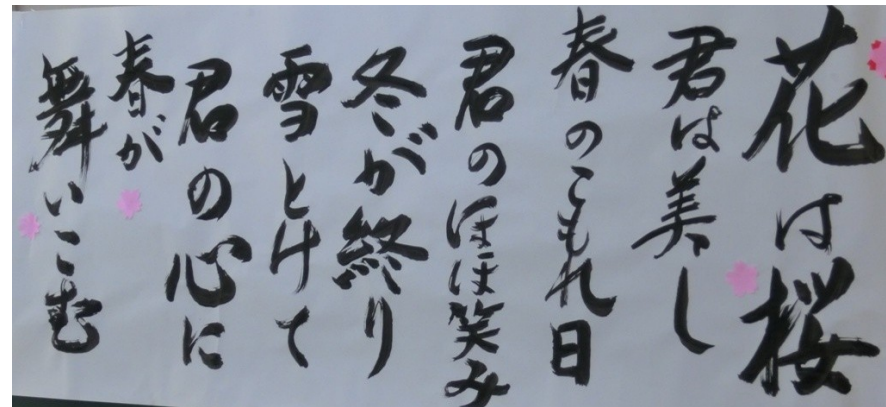
はじめに、上野議員が3月議会の様子を、次のように報告しました。

「例年の3月議会は予算議会といわれ、1年間の予算が審議されました。今年の3月議会は、消費税増税など安倍政権の暮らし破壊の暴走政治と、それに追従する市政に対して、市民の暮らしを守るべき議員や会派の姿勢が明確に問われた議会でした。そうした中、消費税増税が反映された予算や条例改正に反対し、市民の暮らしを守る立場には立ったのは、残念ながら日本共産党の3議員だけでした」とのべました。

続いて報告に立ったはしづめ団長は、まず、「介護保険制度が改悪されたら、利用が制限されたり負担が増えたりでたいへんです。

私の母もこのほど要介護認定され、介護保険を活用することになりましたが、力を合わせて改悪をやめさせましょう」と、介護保険制度について触れました。次に、「原発は、稼働していなくても事故が起きる可能性があります。事故が起こった際の避難計画すら、十分には立てることができていません。やはり、原発は今すぐ完全になくすことが、どうしても必要です」と、原発ゼロの必要性をのべました。

さらに、この間厳しく追及してきたガス水道局所管の入札談合疑惑について、市と議会のこれまでの



展示された市民の作品 いきものがかり「花は桜」



議会報告を行うはしづめ議員団長と上野議員

経過を報告しました。「談合の事実関係を裏付けるようなたくさん生々しい資料が明らかにされたにもかかわらず、議会は公正取引委員会の調査結果待ちの姿勢で独自解明の手立てをとろうとしない。市民の関心も高く、議会として地方自治法百条に基づく特別委員会を立ち上げて解明すべきです」と、日本共産党議員団の立場を明確にしました。

報告会の後は、吉川区での報告会と同様、タケノコの粕汁をはじめ、山菜がたっぷりの料理がふるまわれました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 410 2014年5月18日

連絡先

橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)